

国立公園満喫プロジェクト
に係るヒアリング資料（抜粋）
（北海道）

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	川湯温泉街	ビュー ポイントNo	1
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
<p>○利用形態 源泉かけ流しの温泉施設を持つ宿泊施設に宿泊または日帰り入浴。温泉街を流れる湯の川に設置された足湯および公衆浴場の利用。エコミュージアムセンターで弟子屈エリアと国立公園全体の情報を収集するとともに、自然環境について学習。硫黄山周辺を含む川湯温泉周辺の原生林の散策路をハイキング。</p> <p>○外国人旅行者の実態 JR川湯温泉駅から道道で硫黄山を経由、または青葉トンネル散策路とつつじが原散策路を経由して温泉街へ徒歩で移動している。エコミュージアムで弟子屈エリアのハイキングコース、キャンプ場および国立公園全体の情報を収集する。川湯温泉に宿泊する外国人旅行者は主にアジアの団体客で、欧米諸国の旅行者は屈斜路湖、摩周温泉のユースホステルや民宿を利用して日帰りで川湯温泉を訪れる傾向にある。</p> <p>外国人旅行者の温泉街宿泊延べ人数実績（H27年度）は、9,280名（上期4,076名/下期5,204名）となっている。</p> <p>○アクセス JR川湯温泉駅から路線バスで10分または徒歩30分。</p> 			
1-2. キャパシティ			
<p>○宿泊施設 合計件数 11件 / 合計部屋数 580室 / 合計収容人数 2,458名</p> <p>○足湯 同時入浴可能人数 20名</p>			
1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○アドバンテージ

- 硫黄山から流れる湯の川から採る温泉は、日本でも屈指の酸性度の高い温泉（PH1.8）であり、温泉街の宿泊所はいずれも源泉かけ流しである。
- 硫黄山の硫黄採掘の時代からの長い開拓の歴史がある。
- 周囲は硫黄山、つつじが原、アカエゾマツの森等の原始から変わらない森林に囲まれており、国立公園らしい環境に立地する。
- 川湯園地には国立公園の全体像を学習できるエコミュージアムセンターがあり、総合的に情報収集と学習ができる。
- 園地入口の足湯は旅行者と住民の交流の場にもなっている。
- 摩周湖、屈斜路湖にも近く、ハイキング、登山、カヌー、釣り、乗馬などのアクティビティーを満喫するための拠点となる。
- 英語対応可能な地元の旅行会社があり、現地ツアーへの参加申し込みも容易である。

○克服すべきポイント

- 廃業した宿泊施設および土産物店の建物、看板が放置され景観が著しく損なわれ、通行の安全に問題が生じている場所がある。
- 営業中の施設も老朽化が激しく、一部使用できないフロアがあるなど全体的に疲弊した雰囲気になっている。
- 昼食を提供する飲食店が非常に少なく、店とメニューが限定されている。
- 歴史ある温泉街としての景観の統一感がない。観光案内所はあるが、多言語対応できていない。

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- 硫黄山の硫黄採掘のための鉱山鉄道や温泉街の歴史などを学習できる資料館を作る（現在観光案内所が入る公共の施設または硫黄山レストハウス内に設置可能）
- 温泉街から歩ける散策路の整備および散策路案内表示を多言語化する。
- 温泉街の空き地にピクニックエリアを整備する。

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- 廃業した倒壊の可能性がある建物を撤去し、ピクニックエリアを整備する。
- 環境省の条例に基づき、国立公園内の歴史ある秘湯をイメージした温泉街の景観プランを策定し、事業者にも順守を促す。
- 空き店舗利用者への助成等の内容を充実させ、飲食店の新規開業者を支援する。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	ビュー ポイントNo	2
1. 現状分析		
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等		
<p>○利用形態 かつては第一と第三展望台を繋ぐ散策路があり途中に第二展望台があったが、現在は整備がされておらず通行不能。冬季は、スノーシューで移動が可能であり、ガイドツアーに参加する旅行者もいる。第三展望台は第一展望台とは異なる景観を眺望できる夏季のみアクセス可能な展望台として利用される。大型バスは駐車不可のため、自転車、徒歩、バイク、乗用車を利用する旅行者のみ入ることができる。第三展望台は訪問者も少なく建物もないため、より壮大な自然を体感できる。夏の雲海の撮影ポイントとしてプロ・アマチュアを問わず写真家の利用も多い。</p> <p>○外国人旅行者の実態 第三展望台は観光バスを利用しない主に欧米系旅行者が長時間滞在している。単なる展望台としてだけでなく、早朝の雲海、夜の星観察、冬のスノーシュー（ガイドツアー）で利用されることもある。自転車で北海道を周遊するサイクリストの目的地ともなっている。</p> <p>○アクセス 第三展望台へは釧路空港から空港バスでJR釧路駅まで45分、JR釧網線に乗り換え摩周駅下車、路線バスおよび期間限定町内周遊バス（7月中旬～10月中旬、1月末～2月末）で30分</p> 		
1-2. キャパシティ		
<p>○第三展望台駐車場 乗用車10台</p> <p>○第三展望台の利用者数 制限なし。（展望台および展望台から第一展望台への散策路入口へ向かう通路から眺望可能）</p>		

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント

○アドバンテージ

散策路が通行可能となった場合、

- リスや野鳥などの野生動物や季節の花々や紅葉を観察することができる。
- 世界屈指の透明度を誇る摩周湖を眺めながら適度なハイキングが楽しめる。
- 展望台で滞留する旅行者を分散させることができる。

<克服すべきポイント>

- 散策路の再整備。
- 再整備後の管理。
- 滑落等の防止と安全性の確保。
- 環境保全への対策。

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- 摩周湖周辺の動植物、摩周湖からの景観などについてより理解が深まるような案内表示を多言語で散策路上に複数設置する。
- 第一展望台と同じく完全バリアフリーとなるように散策路を整備する。

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- 関係省庁、関係団体との協議。
- 散策路入口にゲートを設け、夜間は締める。
- 散策路入口に環境保全に関する注意を表示するサインを設置する。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	摩周湖第一展望台とその周辺	ビュー ポイントNo	3
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
<p>○利用形態 摩周湖を眺望するポイントとして、大型バスも乗り入れ可能であり、通年利用されている。摩周岳、西別岳への登山口であり、また北根室ランチウェイの中間地点でもあるため、登山者の利用もある。夏の雲海、冬の霧氷の撮影ポイントとしてプロ・アマチュアを問わず写真家の利用も多数である。 外国人旅行者を含む駐車場利用者のH27年度実績は438,500名(71,600台)</p> <p>○外国人旅行者の実態 自転車、徒歩、車両、路線バス、観光バスを使って多数利用。特に中国、東南アジアからの旅行者は釧路方面からの観光バスで訪れることが多い。単なる展望台としてだけでなく、夏登山、冬のスノーシュー(ガイドツアー)、夜の星観察を目的に、その拠点として利用されることもある。自転車で北海道を周遊するサイクリストの目的地ともなっている。</p> <p>○アクセス 釧路空港から空港バスでJR釧路駅まで45分、JR釧網線に乗り換え摩周駅下車、路線バスおよび期間限定町内周遊バス(7月中旬～10月中旬、1月末～2月末)で25分</p> 			
1-2. キャパシティ			
<p>○駐車場 乗用車132台 / 多目的車5台 / 大型バス14台</p> <p>○利用者数 制限なし。(展望台およびレストハウス屋上、レストハウス前の展望スペース、展望台からレストハウス屋上への通路から眺望可能)</p>			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください(ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること)

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント
<p>○アドバンテージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世界屈指の透明度を誇る摩周湖を目前に眺めることができ、夜は晴れていれば満点の星空を観察できる。 ● 登山口に位置し、トイレなどの施設を使用できる。 ● 展望台までスロープがあり、バリアフリー設計になっている。 <p>○克服すべきポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 展望台の柵が縦格子のため、車いすから湖の全景を眺望できない。 ● 4月下旬から7月中旬、10月中旬から1月末までの期間はバスが運行されず、最寄駅からはタクシー利用または徒歩となる。 ● 摩周湖を眺めながら長時間滞在できる設備がない。（ベンチ、カフェなど） ● サインが統一されていない。
2. 対策
2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境省による摩周湖および阿寒国立公園を解説する多言語看板を屋外に設置し、摩周湖への理解を深めてもらうとともに、公園内の他の場所へ誘導し、再訪および長期滞在を促す。 ● 雲海や霧氷、星空観察する旅行者がレストハウス営業時間外でも待機できる施設を作る。
2-2. 克服すべきポイントに対する対策
<ul style="list-style-type: none"> ● 車いすからでも眺望を妨げないように、展望場所の柵を透明なボードに変える。 ● JR摩周駅からの乗り合いタクシーの設置（駅の案内所で人数がそろえばタクシー会社に要請）、バスの運行 ● レストハウス内の湖に面した位置に休憩スペースを設ける。また、レストハウス前の展望スペースをオープンカフェにし、レストハウス屋上をピクニックエリアにする。 ● 環境省による国立公園内共通デザインの多言語看板を設置する。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	釧路川源流（屈斜路湖からの流出ポイント）に 架かる眺湖橋	ビュー ポイントNo	4
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
<p>○利用形態 川湯・屈斜路コタン方面と美幌方面を結ぶ道路に架かる橋で屈斜路湖と釧路川源流を眺望できる。橋のそばにはカヌーポートがあり、釧路川をカヌーで下る人の撮影や釣りにも利用されている。</p> <p>○外国人旅行者の実態 カヌーツアーに参加する旅行者はこの橋をくぐって釧路川へ出る。カヌーツアーには主に中国、東南アジアからの旅行者が参加している。</p> <p>○アクセス 釧路空港から空港バスでJR釧路駅まで45分、JR釧網線に乗り換え90分の摩周駅下車、タクシーで20分。またはJR川湯温泉駅から期間限定町内周遊バス（7月中旬～10月中旬、1月末～2月末）で60分のコタン下車徒歩10分。</p> 			
1-2. キャパシティ			
制限無し			
1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○アドバンテージ

- 釧路川のスタートポイントにある橋であり、水面からの距離が近いカヌー利用者を撮影するには最適な場所である。
- 屈斜路湖が釧路川にそそぐ場所で、水面が近いので、魚を観察することができる。

<克服すべきポイント>

- コンクリートの橋に鉄の欄干は釧路川源流の景観として好ましくない。釧路川源流のイメージを損ねる。
- カヌー利用者が橋を下から見上げた時に圧迫感がある。
- 老朽化している。

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- 橋の欄干を高くし、安全性を確保する。
- 水面からの高さは維持し、擬木を使った橋にかけ替える。

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

2-1に同じ。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	阿寒湖畔湖岸公園 (湖畔園地～ボッケ遊歩道～滝口)	ビュー ポイントNo	5
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
<p>○当該ビューポイントの利用形態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湖岸散策（園地） ・自然探勝、トレッキング、フィッシング、スノーシュー（遊歩道、滝口） <p>○当該ビューポイントまでの主要利用拠点からの公共交通機関での所要時間、経路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿寒湖畔エコミュージアムセンターから徒歩で約5分（湖畔園地） ・ボッケ遊歩道～滝口間は徒歩約2時間 ・景観画像、経路等については下記参照 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>阿寒湖畔園地</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>阿寒湖畔園地から望む雄阿寒岳と遊覧船</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>朝焼けの阿寒湖</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ボッケ遊歩道</p> </div> </div>			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください



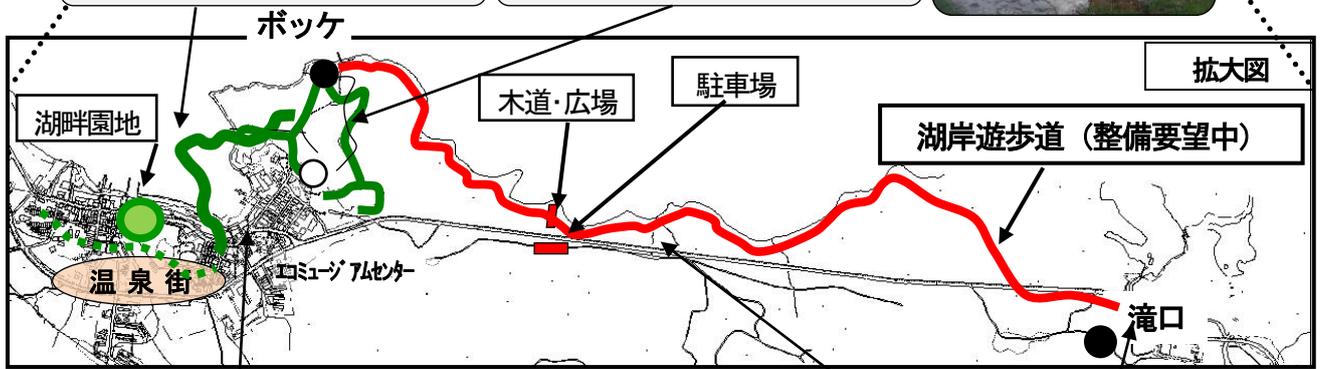
既存遊歩道から見る阿寒湖温泉



ボッケより雄阿寒岳を望み滝口へ



ボッケ(泥火山)



既存遊歩道入口 (阿寒観光汽船本社側)



阿寒湖岸



景勝地「滝口」



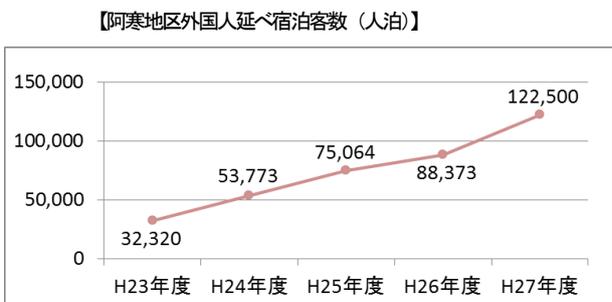
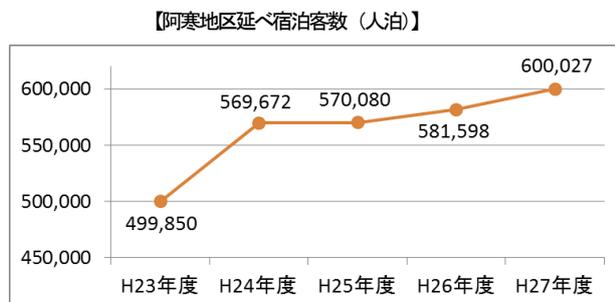
※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください (ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること)
 ※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○交通アクセス

- ・ 釧路空港→阿寒湖温泉（路線バス：約60分）
- ・ JR 釧路駅→阿寒湖温泉（路線バス：約110分）

○当該ビューポイントを訪れる外国人旅行者の数、国籍、意識調査等の結果

■ 阿寒地区の延べ宿泊客数の推移



1-2. キャパシティ

- ・ 湖畔園地に関しては、利用形態が湖岸散策等の都市公園的利用が主となることから、観光客の増加に伴う風致等への影響は生じない。
- ・ ボツケ～滝口区間（3.0 km）の半分程度においてフットパスが形成されており、主に釣り人に利用されている。なお、滝口には雄阿寒岳登山者用の未舗装駐車場（6～7台）があり、夏期には登山者等の車でスペースが埋まることがあるため、駐車場整備や当該遊歩道の整備を行うことで、キャパシティを増やすことができる。
※当該区間は歩道阿寒湖畔滝口線の未執行区間であり、釧路市より整備に対して要望実施中。
- ・ 宿泊地（阿寒湖温泉）の稼働状況は、8月（盆休み期間等）、10月（紅葉時期）、2月（春節期間）において集中的にピークを迎えるが、それ以外の時期においては宿泊キャパシティに問題はない。

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント

【アドバンテージ】

- ・ 湖畔園地は阿寒湖の湖岸まで直接立ち入ることのできる有数のポイントであり、雄阿寒岳をはじめとする阿寒の山々を眺望することができ、エコミュージアムセンターを拠点とする湖畔の自然をゆっくりと楽しめる空間と、上質感のある滞在環境を満喫することができる。
- ・ ボツケ遊歩道と、湖岸遊歩道の未整備区間である「ボツケ」から「滝口」に至るルートは、雄大な雄阿寒岳と湖水を眺望しながら自然探勝や散策が楽しめる唯一のコースであり、「世界最高峰の遊歩道」になりうる潜在性を有している。

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

【克服すべきポイント】

- ・親水護岸、遊歩道等の未整備、老朽化
- ・案内、誘導等サインの未整備、不統一
- ・外国人旅行者の受入を見据えた国際化対応含むユニバーサルデザイン化
- ・ヒグマ等野生動物発生における利用者の安全確保（ボッケ遊歩道～滝口）

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- ・「自然」「文化」を活かしたエコツアー等の滞在プログラムの企画開発と磨き上げ
- ・海外への効果的なプロモーション等の実施、情報発信力の強化

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- ・親水護岸並びに遊歩道、駐車場等の整備の実施
- ・阿寒国立公園エリア全般にわたるサイン表示の統一化、ユニバーサルデザイン化
- ・利用者の安全性を確保するための管理体制の構築、利用規制等の検討

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	白湯山自然探勝路	ビュー ポイントNo	6
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
<p data-bbox="113 483 523 517">○当該ビューポイントの景観等</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="142 539 740 983">  <p data-bbox="272 1010 563 1039">白湯山頂上付近からの眺望</p> </div> <div data-bbox="767 544 1358 983">  <p data-bbox="892 1016 1203 1046">白湯山展望台付近からの眺望</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="142 1104 620 1738">  <p data-bbox="277 1771 424 1800">白湯山展望台</p> </div> <div data-bbox="707 1272 1335 1738">  <p data-bbox="911 1771 1058 1800">白湯山探勝路</p> </div> </div> <p data-bbox="113 1852 555 1886">○当該ビューポイントの利用形態</p> <p data-bbox="172 1901 880 1935">登山、自然散策等、スノーシュー、スキー（スキー場）</p>			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○当該ビューポイントまでの主要利用拠点からの公共交通機関での所要時間、経路
 阿寒湖畔エコミュージアムセンターからスキー場まで車で5分、展望台まで徒歩 90分

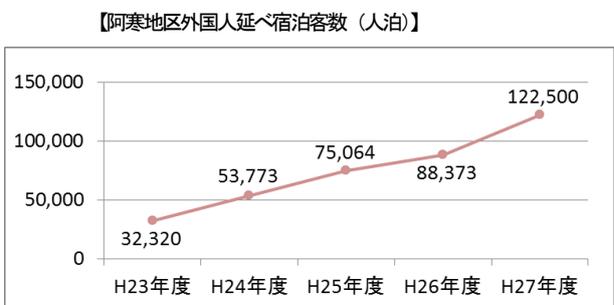
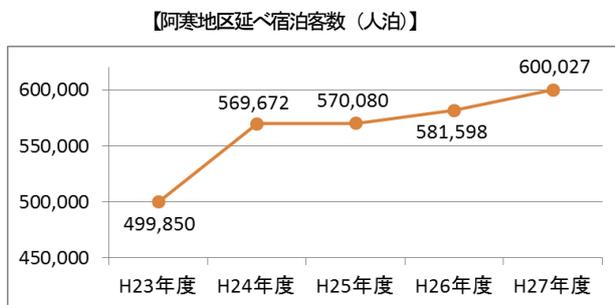


○交通アクセス

- ・ 釧路空港→阿寒湖温泉 (路線バス : 約60分)
- ・ JR 釧路駅→阿寒湖温泉 (路線バス : 約110分)

○当該ビューポイントを訪れる外国人旅行者の数、国籍、意識調査等の結果

■ 阿寒地区の延べ宿泊客数の推移



※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください (ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること)
 ※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

1-2. キャパシティ

- ・近年、観光客等への認知度も向上し、利用者も増加傾向にあるものの、現状、過度の利用は見られない。ただし、踏圧による登山道の土壌浸食や、柵や木道の老朽化が散見され、今後利用者が増加した際の探勝路の管理、破損状況への対処に課題を残す。
- ・宿泊地（阿寒湖温泉）の稼働状況は、8月（盆休み期間等）、10月（紅葉時期）、2月（春節期間）の一部時期においてピークを迎えるものの、それ以外の時期においては宿泊キャパシティに問題はない。

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント

【アドバンテージ】

- ・白湯山自然探勝路は阿寒国立公園を代表する雌阿寒岳、雄阿寒岳、まりもの阿寒湖と阿寒湖温泉市街を一望できる景勝地となっており、当該ビューポイント一体にはボッケ（泥火山）や噴気高原が点在し、火山性の特異的な地形を観察することができる。
- ・夏季は登山や自然探勝、冬季はスノーシュー（探勝路入口まではスキー場ゲレンデのためスキーも可能）を楽しむことができ、四季折々のアクティビティの魅力が発揮されている。

【克服すべきポイント】

- ・探勝路（柵、木道、土壌侵食等）及び案内看板等の老朽化
- ・外国人旅行者の受入を見据えた国際化対応含むユニバーサルデザイン化
- ・ヒグマ等野生動物発生における利用者の安全確保

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- ・「自然」「文化」を活かしたエコツアー等の滞在プログラムの企画開発と磨き上げ
- ・海外への効果的なプロモーション等の実施
- ・隣接するスキー場敷地との一体的整備や情報発信

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- ・自然探勝路及び案内看板等の整備の実施
- ・阿寒国立公園エリアでの統一感を持った、サイン表示の検討、ユニバーサルデザイン化
- ・利用者の安全性を確保するための管理体制の構築、利用規制等の検討

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	オンネトー園地	ビュー ポイントNo	7
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
<p>○当該ビューポイントの景観等（四季折々のオンネトーと背後にそびえる雌阿寒岳）</p>   			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

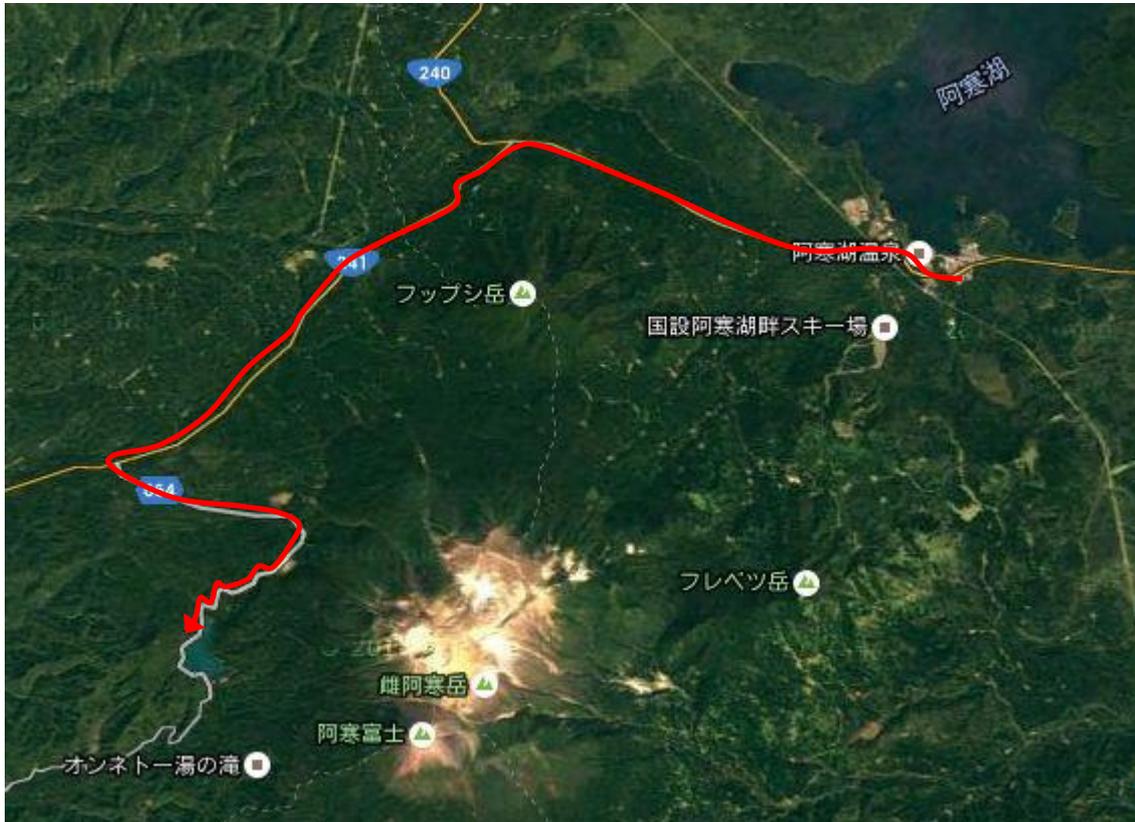
※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

○当該ビューポイントの利用形態

湖岸散策、トレッキング、キャンプ等

○当該ビューポイントまでの主要利用拠点からの公共交通機関での所要時間、経路

阿寒湖畔エコミュージアムセンターから車で約 20 分



○交通アクセス

- ・ 釧路空港→阿寒湖温泉（路線バス：約 60 分）
- ・ JR 釧路駅→阿寒湖温泉（路線バス：約 110 分）

○当該ビューポイントを訪れる外国人旅行者の数、国籍、意識調査等の結果

- ・ 外国人旅行者数：不明
- ・ オンネト一地区入込数：320,074 人（H27 年度）

1-2. キャパシティ

・ 別名「五色沼」と呼ばれるほど季節や天候によって色鮮やかな景観を見せるオンネト一は、観光客の知名度も非常に高く、観光のピーク時（夏～秋）には、大型観光バスの多数立ち入りによりすれ違いが困難な状況が散見される。そのため、ピーク時には既存の主な利用形態（観光バスによる乗り入れ等）による利用増は避けるべきである。

※ビューポイント 1 か所ごとに No をつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが 5 か所ある場合は、別紙を 5 部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

- ・最寄の宿泊地である阿寒湖温泉の稼働状況は、8月（盆休み期間等）、10月（紅葉時期）、2月（春節期間）の一部時期においてピークを迎えるものの、それ以外の時期においては宿泊キャパシティに問題はない。

1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント

【アドバンテージ】

- ・オンネトーは湖岸を森林で囲まれており、季節や天候、見る角度によって、澄んだ青、エメラルドグリーン、ダークブルーに色が変わって見えるだけでなく、雌阿寒岳・阿寒富士をバックにオンネトーを望むことができる良好な写真撮影ポイントでもあり、多くの利用者に親しまれている。
- ・オンネトーより3kmほどに位置する「湯の滝」は、マンガン酸化物生成現象が地上で見られる世界でただ一箇所の貴重な場所であり、国の天然記念物に指定されている。
- ・オンネトー周辺には、アカエゾマツ原生林、雌阿寒岳（固有の高山植物、活火山）、湯の滝などここでしか見ることのできない秀逸な自然が多い。

【克服すべきポイント】

- ・湖岸テラス及び案内看板等の老朽化
- ・外国人旅行者の受入を見据えた国際化対応含むユニバーサルデザイン化
- ・観光ピーク時の駐車帯スペースのオーバーユース
- ・雌阿寒、オンネトー地域の自然保護活動、エコツアーの拠点が無い

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- ・「自然」「文化」を活かしたエコツアー等の滞在プログラムの企画開発と磨き上げ
- ・海外への効果的なプロモーション等の実施、情報発信力の強化

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- ・湖岸テラス及び案内看板等の整備の実施
- ・阿寒国立公園エリアでの統一感を持った、サイン表示の検討、ユニバーサルデザイン化
- ・車両乗入数の均一化を図るための取組みの検討（乗合タクシーや、サイクリストが利用する乗入施設の新設等）
- ・自然保護活動やエコツアーなどの拠点としての博物展示施設（ミニビジターセンター）の整備

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

ビューポイントの展望

ビューポイント (満喫ポイント) の名称	つつじヶ原自然探勝路	ビュー ポイントNo	8
1. 現状分析			
1-1. 利用形態、外国人旅行者の実態、当該ビューポイントまでのアクセス等			
<p>○利用形態 川湯エコミュージアムセンターからつつじヶ原を経て硫黄山までの自然探勝路であり、道は起伏も少なく、誰でも歩くことができる センターからアカエゾマツ、エゾマツの針葉樹とミズナラ、シラカンバの広葉樹が調和した天然林が広がり、見事なアカエゾマツの純林に沿って進むと日本一のイソツツジの大群落で、6月には一面、白い花が咲き誇り見事な眺めとなる。 イソツツジの大群落を過ぎると高山帯に生息するハイマツが低地に群落をつくっており、ほかでは見られない光景が広がり、今でも噴煙を出し続けている硫黄山に至る片道2.7km、60分で散策することができるコースである。</p> <p>○外国人旅行者の実態 JR川湯温泉駅から道道で硫黄山を経由、または青葉トンネル散策路とつつじヶ原散策路を経由して温泉街へ徒歩で移動している。</p> <p>○アクセス JR川湯温泉駅から路線バスで10分または徒歩30分。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>			
1-2. キャパシティ			
<p>○散策路 利用制限なし。</p> <p>○硫黄山駐車場 駐車可能台数 大型バス15台 自家用車154台</p>			
1-3. アドバンテージ（長所）と克服すべきポイント			
<p>○アドバンテージ ●硫黄山から流れる湯の川から採る温泉は、日本でも屈指の酸性度の高い温泉（PH1.8）であり、温泉街の宿泊所はいずれも源泉かけ流しである。</p>			

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください

- 硫黄山の硫黄採掘の時代からの長い開拓の歴史がある。
- 周囲は硫黄山、つつじが原、アカエゾマツの森等の原始から変わらない森林に囲まれており、国立公園らしい環境に立地する。
- 英語対応可能な地元の旅行会社があり、現地ツアーへの参加申し込みも容易である。

○克服すべきポイント

- 硫黄山などでの多言語案内標記及び安全対策。
- 防護柵等の施設の老朽化

2. 対策

2-1. アドバンテージをさらに伸ばすための対策

- 硫黄山の硫黄採掘のための鉱山鉄道や温泉街の歴史などを学習できる資料館を作る（現在観光案内所が入る公共の施設または硫黄山レストハウス内に設置可能）

2-2. 克服すべきポイントに対する対策

- 案内表示などの多言語化
- 老朽化した防護柵などの再整備

※ビューポイント1か所ごとにNoをつけ、ビューポイントごとに本様式に記載してください（ビューポイントが5か所ある場合は、別紙を5部作成すること）

※できる限り写真、図表等を使って分かりやすく記載してください